

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600276		
法人名	社会福祉法人あおい福祉会		
事業所名	グループホームさくらの苑 (ポピー)		
所在地	帯広市西6条北5丁目14番地11		
自己評価作成日	平成30年1月1日	評価結果市町村受理日	平成30年1月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan1=true&JigyosyoCd=0194600276-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成30年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「地域の方々の生きるを支援し、心身ともに健やかで、心地よい生活ができるよう務める」を掲げ、職員一同この理念を基に利用者の生活支援を行っています。
ホームでの余暇活動には、全体で行う季節行事のほか、リハビリを兼ねた創作活動等を通じて、やりがいや喜びを感じていただける様な環境づくりを行い、また個別対応として買い物やドライブへの外出などを行うことで、施設にありがちな閉鎖的な環境ではなく、開放的な気分で過ごして頂けるよう努めています。
また施設設備面においてもクッションフロアや特殊浴槽、エレベーター等を導入し、利用者一人ひとりのADLにあったサービスを提供できるよう努めております。
地域との関わりについては、町内会に加入して積極的に地域活動に参加することや、町内会婦人部を中心としたグループの方々に敷地内の花壇整備等の活動をしていただいたり、近所の保育園との交流を図ったり、ボランティアの方に毎月折り紙教室を開催してもらう他、写真同好会の方々に季節感を感じる写真の掲示をして頂くなど交流を深めています。法人・グループ内の研修にも力を入れており、毎月の法人・グループ内研修は基より、積極的に外部研修にも参加したりして、介護職としての資質を日々高めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

総合福祉事業を運営する法人の中核をなす平成26年2月開設の軽量鉄骨造り2階建て2ユニット(定員：18名)の認知症対応型共同生活介護のグループホームです。
法人では、就業環境の整備に努めると共に職員の段階に応じた法人内研修を継続的にを行い、勤続年数の永い職員が多く在籍しており、チームケアの推進で安定したサービスの提供に取り組み、利用者及び家族からの信頼が厚いことが伺える。
地域とのかわりでは、包括支援センターや行政と協働して、小学校生徒や児童に向けて認知症サポーター養成講座の開催や保育所園児、小学生の慰問を受けたり、運動会見物等で子供たちとの交流、町内会活動(花壇整備、清掃事業等)を通じて事業所の持つ専門性を活かした地域貢献活動や地元の人々との交流に取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある			○	3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や年間の目標を玄関・事務室内に掲示し、朝礼や全体会議の際に確認し合いながら職員全体で共有し実践につなげている。	事業所独自の理念、具体的な年間目標を掲げ、全体会議や朝礼で唱和し、確認しながら職員間で共有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が町内会役員として、地域の会議や行事に相互参加している。	小学校教育や児童に向けて認知症サポーター養成講座の開催や保育所園児、小学生の慰問を受けたり、町内会活動（花壇整備、清掃事業等）参加を通じて地元の人々との交流に取り組んでいる。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症キャラバンメイトとして、地域包括支援センターと協力し、地域の方々やご家族、新入職員等に認知症サポーター養成講座を開催している。			
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎の会議の中で運営状況や活動等を報告し、また議題を提示した中で話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に生かしている。	運営推進会議を定期的に開催して、運営状況や事故防止対策への取り組み、日常生活の様子等を具体的内容について話し合い、そこでの意見や要望等をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター（帯広市社会福祉協議会）職員に運営推進会議委員となつてに参加していただき、情報の共有を行っている。	包括支援センターや行政と協働して、小学校教育や児童に向けて認知症サポーター養成講座を開催している。また、地域包括支援センターとは、助言等を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼での目標の唱和や身体拘束についての研修参加、事業所内委員会の話し合いで共通理解を強化している。	身体拘束廃止委員会が中心となって、身体拘束廃止や高齢者虐待防止等について法人内研修を継続的に実施し、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や事業所内委員会、ミーティングを行い防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間のグループ内研修として組み込んであり、外部より講師を招き、権利擁護や成年後見制度についての研修会を実施しており、それらに参加し必要性を検討するための知識の取得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や運営規程、利用同意契約書等を家族の方へ一つ一つ説明し、納得して頂いた上で了解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にお話を伺うように心がけ、相談窓口の掲示や投書箱も設置して意見や苦情を言いやすい環境を作り、苦情等解決委員会で取り上げそれを反映させるよう努めている。	利用者や家族等が意見や要望等を言い表せるように玄関入り口の見易い場所に意見箱を設置し、そこでの意見や要望等を苦情委員会で検討し、運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催し、職員からの意見や提案を反映し、内容によっては役職者会議等の上部会議に諮っている。	勤続年数の永い職員が多く在籍しており、チームケアの推進で安定したサービスの提供に取り組んでいる。また、職員会議を通じて、意見や要望等を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に明記し、面談やアンケート等を通じて意見や考えを聴取し、日々の努力や実績を法人にも報告した中で、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTチェックの面談を実施し、一人一人目標を持って仕事に取り組んでもらえるよう計らっている。年間のグループ内やその他研修には、全員が参加できるよう配慮し、知識の向上や教育に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	十勝高齢者勉強会（介護福祉士会）、グループホーム協議会等が主催する外部研修に積極的に参加し、その中で同業者との交流を深めることによって情報交換や、サービスの質の向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思っている不安な事を少しでも取り除けるよう努力し、ゆとりある安心した自分らしい暮らしができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時における積極的な情報収集を行ったり、家族が困っている事などを気軽に相談出来るように、面会時や電話等でコミュニケーションを取り対応することを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望等を考慮しながら、本人の出来ること、出来ないことを見極め、出来ないところを支援し、出来ることが増えるよう心がけ支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションやお手伝いを通じ、本人と協力しながら一つの事をやり遂げるよう心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員からの近況報告のお便り発送や、家族の来訪時に、コミュニケーションを多く取り、身近な存在と思っていただけるよう努め、本人と家族・職員の絆を深めていけるよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々等との相互交流を図り、本人と触れ合える行事や面会等を通じて楽しんでもらい、関係が途切れないように努めている。	散歩や花見、七夕見物や焼き肉パーティの開催、馴染みの店での買い物や家族と一緒にの外出や以前住んでいた自宅訪問などで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場合によっては職員が積極的にかかわる事により、一緒に楽しく会話ができるよう努めている。また、一人一人の話に耳を傾け会話するよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、何か相談等受け入れる体制をとっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりやアセスメント等の中での言葉や表情などからも意向を把握し、一人一人がその人らしく生活できるよう希望や要望を出来るだけ聞き入れ、それに沿った暮らしができるよう支援している。	一人ひとりの希望や意向を尊重しながら、敬老会や七夕見物、カラオケ大会の実施や紅葉見物などレクリエーションや楽しみごとへの支援に努め、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供や利用者、家族との会話の中から把握し、生活歴を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議やケア会議で利用者の個々の情報を共有しケアに活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人の希望や課題を抽出し。本人や家族、関係者等と検討し、ミーティング等で話し合い介護計画書を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族からの意向や要望、医師や看護師からの指導や助言、モニタリングで職員からの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の生活記録を詳細に記録し、職員会議やケア会議で情報を共有し支援に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時家族等からの相談にも対応し、必要であれば介護老人福祉施設等他施設への紹介等も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣保育園の園児の来訪や行事見学を行った、町内会婦人部のボランティア協力等での交流や、散歩時の自然な形での会話ができています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの疾患に応じた医療機関の協力体制を取り、往診や受診を通じて日常の健康状態を報告できるよう申し送りしている。	往診の利用や日常の健康管理、通院への支援等で適切な医療を受けられるように支援している。受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定や日々の生活の中で体調の変化があった時は、看護職員に報告し、夜間救急などの対応、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関への必要情報の提供を行い、入院中は適宜経過確認を実施している。また、退院後の受け入れ体制を整え、快適に過ごせるよう配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	今後の方向性について家族と話し合いを行い、医療機関を交えた意見交換の中でできる限りの支援をができるよう取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを家族に十分説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し、個別に研修で応急手当の訓練を受講するよう働きかけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時には全ての職員が速やかに対応できるように消防・地域の方々の協力を頂き、利用者と共に実践的な訓練と避難方法の確認を行っている。また、グループとして全体での災害対策を策定し、各施設の協力体制を整えている。	地域の住民、消防署の協力を得ながら年2回、緊急時に職員が速やかに対応できるよう実践的な避難訓練を実施している。また、災害対策を策定し、法人全体で取り組んでいる。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間の連絡を密にして、利用者の気持ちに合った対応を心がけている。	一人ひとりの人格を尊重し、不適切なケアや接遇マナー等の内部研修会を開催し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を尊重し、馴染みの人や場所、散歩、ドライブ、買い物、墓参り等希望を取り入れられるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者の希望や思いを尊重し、その人のペースに合わせ掃除、食事の準備、洗濯等の役割への支援や、手芸やカルタ、おはじき遊び等の楽しみの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力のもと、理美容院を定期的にご利用される他、出張理美容も活用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は、出来るだけ職員も一緒に席に着き、共通の話題で楽しみながら食べていただけるよう努めている。	管理栄養士を中心に利用者の嗜好や栄養バランスを考慮した食事を提供している。また、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日中常や食事の間に水分を摂って頂けるよう対応し、体調管理表に記録して水分量をチェックしている。一人一人に合わせて一口大にカットしたり、トロミを付けるなど対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々にあった口腔ケアを行っている。残存機能を活かし、出来るだけ自力で行ってもらい、出来ないところをお手伝いしている。また、歯科往診も活用しながら口腔内の健康維持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、尿意や便意のサインを見逃さないようにしている。トイレ内では出来ないところのお手伝いをして、自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの力や排泄のパターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事・排泄状況を把握し、水分の声掛けや適度な運動を行っている。必要な方は薬にて調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	個人の希望に応えながら、その日の体調に合わせて気持ちよくゆっくりと入浴して頂けるよう努めている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣を大切にして柔軟な入浴支援をしている。また、特殊浴槽を完備しており、職員の負担軽減や一人ひとりの身体状況に合わせ入浴が楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調やその日の体温を踏まえ、暖房や掛物の調節をし、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の変更になった時は、その後の状況を記録しながら症状の変化を観察している。また、誤薬防止の為必ず2人以上で確認し、内服前に日付等を再確認し個々に適した服用方法を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を把握し、レクやカラオケ・お手伝い等で気分転換を図れるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季に応じた行事での外出のほか、個々の希望に沿って理髪や買い物・喫茶等の外出の支援も行っている。	一人ひとりのその日の希望に沿って、近隣散歩や花見、美容院に出かけるなど戸外に出かけられるよう支援している。また、七夕や紅葉見物、嵐山や菖蒲園見物など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いはホームの金庫にてお預かりしている。個々の希望を聞き、お金を使える支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも家族や友人等に電話をかけたり、手紙等を発信出来る支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に季節の行事の写真を掲示したり、観葉植物や小花を飾ったりしている。また写真同好会の方々の作品を季節ごとに展示している。 空調等にも気を配り、温度や湿度を最適に保っている。	共用空間は、清潔感が漂い、季節に合わせた飾り付けや行事参加の写真等が掲示されるなど生活感や季節感を採り入れ居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる音の大きさ、光の強さ、臭いは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで各々集まり会話をしたりカラオケやテレビを楽しみ、疲れたら自室でゆっくり休まれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使い慣れている物や、趣味として使用してきている物を自宅より持ち込み、居心地よく過ごせる支援をしている。	居室には、使い慣れた家具や寝具等を持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、採光が採り入れられて居室内は明るい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には、手すりを少なくし、その分テール・椅子を伝いながらの歩行練習。ワンフロアにトイレや洗面台を設置し、自立した生活がしやすいように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600276		
法人名	社会福祉法人あおい福祉会		
事業所名	グループホームさくらの苑(コスモス)		
所在地	帯広市西6条北5丁目14番11		
自己評価作成日	平成30年1月1日	評価結果市町村受理日	平成30年1月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600276-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成30年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「地域の方々の生きるを支援し、心身ともに健やかで、心地よい生活ができるよう務める」を掲げ、職員一同この理念を基に利用者の生活支援を行っています。
ホームでの余暇活動には、全体で行う季節行事のほか、リハビリを兼ねた創作活動等を通じて、やりがいや喜びを感じていただける様な環境づくりを行い、また個別対応として買い物やドライブへの外出などを行うことで、施設にありがちな閉鎖的な環境ではなく、開放的な気分で過ごして頂けるよう努めています。
また施設設備面においてもクッションフロアや特殊浴槽、エレベーター等を導入し、利用者一人ひとりのADLにあったサービスを提供できるよう努めております。
地域との関わりについては、町内会に加入して積極的に地域活動に参加することや、町内会婦人部を中心としたグループの方々や敷地内の花壇整備等の活動をしていただいたり、近所の保育園との交流を図ったり、ボランティアの方に毎月折り紙教室を開催してもらった他、写真同好会の方々に季節感を感じる写真の掲示をして頂くなど交流を深めています。法人・グループ内の研修にも力を入れており、毎月の法人・グループ内研修は基より、積極的に外部研修にも参加したりして、介護職としての資質を日々高めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある			○	3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や年間の目標を玄関・事務室内に掲示し、朝礼や全体会議の際に確認し合いながら職員全体で共有し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が町内会役員として、地域の会議や行事に相互参加している。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症キャラバンメイトとして、地域包括支援センターと協力し、地域の方々やご家族、新入職員等に認知症サポーター養成講座を開催している。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎の会議の中で運営状況や活動等を報告し、また議題を提示した中で話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター（常広市社会福祉協議会）職員に運営推進会議委員となつてに参加してもらい、情報の共有を行っている。		
6		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼での目標の唱和や身体拘束についての研修参加、事業所内委員会の話し合いで共通理解を強化している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や事業所内委員会、ミーティングを行い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間のグループ内研修として組み込んであり、外部より講師を招き、権利擁護や成年後見制度についての研修会を実施しており、それらに参加し必要性を検討するための知識の取得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や運営規程、利用同意契約書等を家族の方へ一つ一つ説明し、納得して頂いた上で了解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にお話を伺うように心がけ、相談窓口の掲示や投書箱も設置して意見や苦情を言いやすい環境を作り、苦情等解決委員会で取り上げそれを反映させるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催し、職員からの意見や提案を反映し、内容によっては役職者会議等の上部会議に諮っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に明記し、面談やアンケート等を通じて意見や考えを聴取し、日々の努力や実績を法人にも報告した中で、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTチェックの面談を実施し、一人一人目標を持って仕事に取り組んでもらえるよう計らっている。年間のグループ内やその他研修には、全員が参加できるよう配慮し、知識の向上や教育に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	十勝高齢者勉強会（介護福祉士会）、グループホーム協議会等が主催する外部研修に積極的に参加し、その中で同業者との交流を深めることによって情報交換や、サービスの質の向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思っている不安な事を少しでも取り除けるよう努力し、ゆとりある安心した自分らしい暮らしができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時における積極的な情報収集を行ったり、家族が困っている事・不安に思う事などを気軽に相談出来るよう、面会時や電話等でのコミュニケーションにて対応することを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望等を考慮しながら、本人の出来ること、出来ないことを見極め、出来ないところを支援し、出来ることが増えるよう心がけ支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションやお手伝いを通じ、本人と協力しながら一つの事をやり遂げるよう心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員からの近況報告のお便り発送や、家族の来訪時に、コミュニケーションを多く取り、身近な存在と思っていただけるよう努め、本人と家族・職員の絆を深めていけるよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々等との相互交流を図り、本人と触れ合える行事や面会等を通じて楽しんでもらい、関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場合によっては職員が積極的にかかわる事により、一緒に楽しく会話が出来るよう努めている。また、一人一人の話を耳を傾け会話するよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、何か相談等受け入れる体制をとっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりやアセスメント等の中での言葉や表情などからも意向を把握し、一人一人がその人らしく生活できるよう希望や要望を出るだけ聞き入れ、それに沿った暮らしができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供や利用者、家族との会話の中から生活状況や馴染み等を把握し、これまでの生活歴を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議やケア会議で利用者の個々の情報を共有しケアに活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人の希望や課題を抽出し。本人や家族、関係者等と検討し、ミーティング等で話し合い介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の生活記録を詳細に記録し、職員会議やケア会議で情報を共有し支援に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生れるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時家族等からの相談にも対応し、必要であれば介護老人福祉施設等他施設への紹介等も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣保育園の園児の来訪や行事見学を行ったり、町内会婦人部のボランティア協力等での交流や、散歩時の自然な形で会話ができている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの疾患に応じた医療機関の協力体制を取り、往診や受診を通じて日常の健康状態を報告できるよう申し送りしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定や日々の生活の中で体調の変化があった時は、看護職員に報告し、夜間救急などの対応、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関への必要情報の提供を行い、入院中は適宜経過確認を実施している。また、退院後の受け入れ体制を整え、快適に過ごせるよう配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	今後の方向性について家族と話し合いを行い、医療機関を交えた意見交換の中でできる限りの支援をができるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し、個別に研修で応急手当の訓練を受講するよう働きかけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時には全ての職員が速やかに対応できるように消防・地域の方々の協力を頂き、利用者と共に実践的な訓練と避難方法の確認を行っている。また、グループとして全体での災害対策を策定し、各施設の協力体制を整えている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間の連絡を密にして、利用者の気持ちになつての対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を尊重し、馴染みの人や場所、散歩、ドライブ、買い物、墓参り等希望を取り入れられるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者の希望や思いを尊重し、その人のペースに合わせ掃除、食事の準備、洗濯等の役割への支援や、手芸やカルタ、おはじき遊び等の楽しみの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力のもと、理美容院を定期的にご利用される他、出張理美容も活用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は、出来るだけ職員も一緒に席に着き、共通の話題で楽しみながら食べていただけるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日中帯や食事の間に水分を摂って頂けるよう対応し、体調管理表に記録して水分量をチェックしている。一人一人に合わせて一口大にカットしたり、トロミを付けるなど対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々にあった口腔ケアを行っている。残存機能を活かし、出来るだけ自力で行ってもらい、出来ないところをお手伝いしている。また、歯科往診も活用しながら口腔内の健康維持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、尿意や便意のサインを見逃さないようにしている。トイレ内では出来ないところのお手伝いをして、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事・排泄状況を把握し、水分の声掛けや適度な運動を行っている。必要な方は薬にて調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個人の希望に応えながら、その日の体調に合わせて気持ちよくゆっくりと入浴して頂けるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調やその日の体温を踏まえ、暖房や掛物の調節をし、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の変更になった時は、その後の状況を記録しながら症状の変化を観察している。また、誤薬防止の為必ず2人以上で確認し、内服前に日付等を再確認し個々に適した服用方法を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を把握し、レクやカラオケ・お手伝い等で気分転換を図れるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季に応じた行事での外出のほか、個々の希望に沿って理髪や買い物・喫茶等の外出の支援も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いはホームの金庫にてお預かりしている。個々の希望を聞き、お金を使える支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも家族や友人等に電話をかけたり、手紙等を発信出来る支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に季節の行事の写真を掲示したり、観葉植物や小花を飾ったりしている。また写真同好会の方々の作品を季節ごとに展示している。空調等にも気を配り、温度や湿度を最適に保っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで各々集まり会話をしたりカラオケやテレビを楽しみ、疲れたら自室でゆっくり休まれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使い慣れている物や、趣味として使用してきている物を自宅より持ち込み、居心地よく過ごせる支援をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には、手すりを少なくし、その分テーブル・椅子を伝いながらの歩行練習。ワンフロアにトイレや洗面台を設置し、自立した生活がしやすいように工夫している。		

(別紙4－2)

目標達成計画

事業所名 グループホームさくらの苑

作成日：平成 30年 1月 24日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	47	誤薬事故の発生について	「服薬ミス・薬セットミス」をゼロにする	マニュアルを作成し、一人ひとり誤薬事故についての自覚を持ち、声出しによる確認・多重チェックを励行する。	12か月
2	7	虐待や、身体拘束に発展してしまうような言葉の使い方	それらに繋がるような言葉・行為等の防止	朝礼時に言葉遣いについての目標を職員で唱和し、また外部やグループ内研修への参加を通じて学んだことを事業所に持ち帰り、全員で共有する。	12か月
3	38	ユニット内での年齢・介護度合いの差が大きくなっている	個々のライフスタイルの尊重と実行	それぞれの入居者のニーズや要望に出来るだけ沿ったサービスの提供を検討し、実行する。	12か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。